

〈論 説〉

中国における「人肉検索」についての研究

A Study of Human Flesh Searching Engine in China

石 巍

要旨：

人肉検索¹は、多くの場合で善意、正義を語るものであり、社会道徳と秩序の維持、権力者に対する監督、民主化の推進などの場面で活躍し、文明社会の建設に積極的な役割を果たしている。人肉検索に恐れを抱くのは、大体公德心欠如、法律違反、秩序攪乱に関わっている者たちである。しかし、標的にする人物のプライバシーを暴露したり攻撃したりすることによって、守られるべきの公民権利を侵害してしまうことも無視できない。当事者だけでなく、家族や知人までも掻き乱されるなど、不正追及とプライバシー侵害の問題が常に表裏の関係になっている。きちんと対処法を検討し実行しないと、人肉検索が悪用され、極端な場合国民に身体と財産安全の被害をもたらす恐れがある。本研究では、人肉検索の形成及び実情を説明し、各分野の観点を総合的に考慮して、人肉検索を規制する方向を検討しようと思う。

キーワード：

プライバシー侵害、サイバー暴力、Q&A式サービス、公的権力に対する監督権

1 検索エンジンによるネット検索から派生した表現である。狭義では、インターネットを媒介にして、人海戦術により特定な人物や事件などに対して、情報を交換・共有する群衆運動である。

1. 背景

かつて、インターネットの匿名性について語ると、よく「インターネットでは、実はキミが犬だって事を誰も知らない²」と言われる。しかし、リアルの実社会とバーチャルのサイバースペース（ネットワーク空間）は、決して平行した別世界ではない。インターネットの応用が発展してくる同時に、現実社会とサイバースペース間の繋がりもだんだん強くなってきた。

インターネットには、蓄積される情報が極めて豊富であると言える。しかし、特定された分野・状況の細かい質問にぴったりする解答がなかなか見つかりにくい。それで人々はBBSなどインターネット・コミュニティサイトに質問を投稿し、精度あるいは対応性の高い解答を直接に獲得するようになった。解答にまだ不明な点があれば、追加質問を提出することができる。ユーザーを積極的に解答活動に参加させるために、各サイトは解答者にそれぞれの激励制度が設けている。例えば、一定数の仮想通貨を報酬と承諾する。下記の事例でよく利用される「MOP（猫扑網）」は、最初に「人肉搜索」と称する掲示板を設けた頃、ポイント制（MP = Mop Point）を導入して利用者の参加と定着を促していた。参加者のやる気を高めて競争を行わせることとなり、「バウンティ・ハンター（賞金稼ぎ）」と呼ばれるユーザーが出現した。競争の結果、より早く、より正確な情報を提供するバウンティ・ハンターが、より多くのMPを稼ぐようになる。グーグルを含め、各大手サイトが続々と同様のコーナーを設けて、中国のネット上で一大ブームを巻き起こした。

つまり投稿を提出する者が答えをもらい、コメントを書き込んだ者が何かの奨励をもらうという仕組みである。これで、いわゆる人肉検索のシステムが形成した。現存している中国の「百度知道」、「新浪愛問」や日本の「Yahoo!知恵袋」、「人力検索はてな」などのサイトは、このQ & A式のシ

² Peter Steiner 創作した漫画で、1993年7月5日に米国の雑誌『The New Yorker』に掲載された。

システムを継承している。

2. 概念の区分

2.1. 研究範囲の限定

「現代の情報技術を利用し、伝統的なネット情報検索を関係型のネットコミュニティに変える」と、Googleが提供する人肉検索サービスのホームページで、このように定義している。Googleの定義に従うと、この前言及した中国の「百度知道」、「新浪愛問」と日本の「Yahoo!知恵袋」、「人肉検索はてな」などのサービスは、皆人肉検索に属する。しかし、これらが本研究の研究対象とは異なるものである。両者を区別するために、本研究ではこれらのことを「人肉検索」と呼ぶ。他にも、ナレッジコミュニティ、知識検索、Q & Aサービスなどと呼ばれることがある。本研究の対象とする「人肉検索」との具体的な差異は、次の節（2.2）で詳しく説明する。

本研究で扱う人肉検索の案例は、すべてインターネットで大騒ぎを引き起こし、時々当事者に対する攻撃（サイバー暴力及び現実社会で起こる騒ぎ乱し、暴力事件などを含む）も伴っている。というわけで、「インターネットが出現した前で行われた」あるいは「インターネットを応用していない現実社会で行われた」人肉検索に類似する活動[1]は、本稿の研究範囲に属しない。

英BBCは中国の人肉検索に関するニュースを報道する中で、その中国語表記である「人肉搜索」を「human flesh search engine」と訳したり、さらに欧米読者の理解を助けようと「witch hunt」（魔女狩り）という形容まで付け加えたりした。中国ではやる人肉検索が、かつての魔女狩りのようにみえたのであろう。米国では、マスコミが人肉検索を「Chinese style internet man hunt」と訳した。確かに人肉検索は儒教思想という伝統的な文化の関係で、差序格局の関係主義が生じやすい中国に頻発し、中国の社会条件に根差した社会現象とは言えるが、似た現象は日本や韓国、

台湾地方などにも発生している、決して「中国大陆特有」の現象ではない。[2]例えば、日本のしまむら店員土下座事件（2013年）、韓国の犬糞女事件（2005年）、台湾内湖猫虐待事件（2006年）、台湾新店救護車阻擋事件（2010年）などがある。しかし社会現象は、国の文化や伝統、習慣、社会現状、国民性などに深く関連し、参与する者の倫理観や思考プロセス、行動パターン、法的意識などが国によって違うと思って、扱った事例はすべて中国で発生したものである。海外で発生した人肉検索に対して論じない。

というわけで、本稿において研究対象とする「人肉検索」は、インターネットを媒介にして、インターネット上で盛り上がる、中国大陆のネチズンが行われた、他人に対する情報暴露や攻撃などの活動である。

2.2. 「人力検索」と「人肉検索」の区別

人力検索とは、自分で検索エンジンを利用してネットを検索するのではなく、不特定多数のユーザーに検索・知識提供を求めるシステム、またはそのサービスを提供するサイトのことである。

形式上からみると、人肉検索も人力検索もQ & Aの形を取っているが、両者を対照してみたら、以下のように本質的な差異が幾つかある。

- 1) 中国語での表現が違う。静岡大学情報学部の高広強と中尾健二の論文によると、人力検索（ナレッジコミュニティ）は中国語で「人工搜索」と表現されるものとし、「人肉搜索」とは異なるものと定義しているという。[3]
- 2) 質問の種類からみると、人力検索の方はある物事の使い方、やり方、内容解読などの知識や経験を求める質問が多い。それに対して人肉検索の方は、倫理違反者の個人情報の要請、行政監視と汚職役人の摘発、行方不明者の検索などプライバシーを求める質問が多い。
- 3) 投稿者の目的からみると、人力検索の方は、何かの知識や経験を教えてもらいたいことが多い。一方人肉検索の方は、ある事件の裏情報や当事者のプライバシーを暴露すること、ひいては当事者を攻撃

してもらいたいことが多い。

- 4) 解答者の行動からみると、人力検索の方は、不特定多数のユーザーが特定の一人のユーザーに情報を提供するのに対して、人肉検索の方は、不特定多数のユーザーが特定の一人のユーザーの呼びかけに応じて、標的になった人・事件の情報を検索・暴露する。
- 5) 人肉検索を呼びかける投稿は主にBBSやブログなどソーシャル・プラットフォームに集中している。既知の資料では、「百度知道」や「新浪愛問」など一般的な人力検索サービスを利用したケースが一件もなかった。

3. 情報収集の手法

人肉検索という活動において、あらゆるの手段を使ってターゲットの情報を探し出すのは最も大事な作業であると言える。情報を収集する手法は、大きく2種類に分類できる。

1) 関連性検索

人海戦術の特長を十分に発揮するタイプである。既知の情報に関連する（あるいは関連性があると思われる）ことを徹底的に調べる。代表的な事例は猫虐待事件である。

2006年2月26日、MOPで「怒り：中年女性が小動物を虐殺」という記事が掲載された。記事では中年女性が猫をむごたらしい方法で殺害する一連の写真をネットに暴露した。その後、当記事が各サイトとBBSで転載され、ネチズンたちが自発的に事件を調査し始まった。

2月28日、あるネチズンが猫虐待動画にあるドメイン名（www.crushworld.net）に対して調査を行い、当サイトの登録地は杭州であり、マネジャーの英語の名前は「Gainmas Guo」などが分かった。

3月1日、当サイトがネチズンからの攻撃を受け、落とされた。

3月2日、「当事者は杭州にいない、黒竜江省のある町にいる。猫虐待事

件の現場は地元の観光地で、当事者は病院で働いている」という情報が入った。

3月3日、あるネチズンは動画を販売する者の資料を調べた。ID「liyj6868」という販売者が黒竜江省蘿北県のテレビ局で働いている。現場から近いから、当事者の一人として疑われた。さらに蘿北県政府のホームページを調べて、観光地の写真は事件現場であること及び動画販売者の李跃軍が特定された。

3月4日、「動画にある女性は王珏という、黒竜江省鶴岡市出身、年齢は40代、職場は蘿北県人民医院、夫との感情が不仲で行動異常、何年前ビルから落ちたことがあった。猫虐待事件の現場は黒竜江省蘿北県名山島である。」という詳しい情報が公表された。問題の表面化から6日ほどで当事者を特定した。

2) ハッキング

ハッキング技術を応用するタイプである。ターゲットの所有しているアカウントから、直接に情報を取り出す。代表的な事例は王宝強離婚事件である。

2016年8月14日、中国人気俳優王宝強が声明文を公開し、離婚を発表した。声明文には妻の馬蓉がマネジャーの宋喆と不倫関係にあると告発し、「結婚への悪意ある裏切り、家庭を壊した行為を受け入れられない」と離婚原因を語っている。あまりに衝撃的な告発が中国社会を震撼し、間もなく宋喆の個人情報ははじめ、経歴や各種の連絡先、ホテルの宿泊記録等々すべてが暴露された。

8月25日、雷鋒網が「ハッカーは如何に他人の情報を手に入れるか」または「現代社会において如何に個人情報を守るか」について、360ネットワーク攻防実験室の林偉に取材した。[4]これから、ハッカーが情報を取り出す方法の部分を簡単に述べる。

まず、ネットで流れている写真からみると、不倫をした2人の、少なくとも1人のスマホが攻め落とされたと思われる。 iCloudの安全性はパス

ワードの強度及び修復用メールアドレスの強度によるものである。あいにく宋が常用しているのは、安全性が低いと言われる網易のメールアドレスであるという。間もなく宋の所持する各メールボックスをはじめ、数多くのアカウントが攻め落とされ、セフレ交際情報を含む様々なプライバシーが暴露された。

林偉が公表された情報を基づいて、宋のアカウントを落としたステップについて簡単に整理した。①携帯番号、身分証明書情報が社工庫³によって漏洩した。②網易メールボックスがクラックされ、他の修復用メールアドレスと常用メールアドレスが暴露した。③メールアドレスで登録する人々網と豆弁網がやられた④メールボックスと同じまたは類似のパスワードを使用する京東、大衆点评、外売Appがクラックされた。⑤あるネットショッピングのお届け先住所が暴露し、身を隠した住所が判明された。

4. 事件の分類

人肉検索を行う動機または結果からみると、主に以下の5種類に分類する。

1) 道徳審判型

最も広範に存在し、最も争議を起こしやすいタイプは、道徳的あるいは民族的な正義を振りかざして行われるものである。真・善・美の発揚、偽・悪・醜への非難という、秩序の維持と構築を強く志向する傾向がある。投稿に書かれた内容がネチズンの倫理観を挑戦し、激しい憤りを巻き起こしたため、ネチズンは道徳感を基にしてネット上で非難したり漫罵したり、それでも気が済まないからターゲットのプライバシーを暴露する。その後、集まった情報で現実社会でターゲットに対して攻撃する。場合によって、標的になった者の家族や親友、職場まで巻き込まれる。(猫虐待事件、銅須門事件、銭軍傷害事件、死亡ブログ事件、被災者漫罵事件など)

3 インタネット上には「社工庫」と呼ばれる、ユーザーのアカウント情報を蓄積するデータベースがある。

検索された者の反応からみると、大人しくなってしばらくネットから消えてしまう案例は一番多いが、ネチズンと口論になったりプライバシー侵害を批判したりする案例もある。偶には、親が出てきて謝罪したり、世論の圧力に耐えられなくて自殺したり、プライバシー侵害の理由で裁判を起こす案例もあった。例えば、死亡ブログ事件で検索された者が投稿者と関するサイトを起訴し、「人肉検索第一案」を起こして勝訴した。

2) 汚職摘発型

インターネット上の手がかりに対して検索を行い、汚職の証拠を掘り出して、民主監督と社会正義を発揚するタイプである。道徳審判のほかに、人肉検索の矛先が最も向かいやすいのは、政府の役人である。2008年には2つの政府高官が、人肉検索により集中砲火を浴び、職を失った。(周久耕汚職事件、林嘉祥少女わいせつ事件) 権力を持つ者の横暴や、行政機関の腐敗など不正に対するいわば「弱者の武器」となっている

3) 真相追求型

何かの目的で注目を集めるよう、インターネットで虚偽の情報を投稿することがとても多い。時々、ネチズンは違和感を感じたり、興味になったりして、真相を突き止めてしまう。(華南虎写真捏造事件、最も美しい女性清掃員)

4) 人探し型

行方不明者の検索や容疑者の追捕、連絡先を失った知り合いの情報提供、人肉検索は様々な場面で活躍している。積極的に役に立つ場合があるし(迷子になった子供の親探しや四川大地震被災者の家族検索)、予期以上に騒ぎを招いてしまう場合もある(オリンピックチャンピオンの父親探し)。悪利用されて、悲劇を引き起こしたこともあった(女子大生刺殺案)。

5) 娯楽型

「やらせ」疑惑事件に係わる2人は、ネチズンから受けた攻撃の程度が多少違うが、どちらも発言が流行語になって、当事者本人のことがパロディの材料になった。もちろん CCTV に対する批判もあった。

5. 各分野の観点

5.1. 社会心理学視点から [5]

1) 個性表現のアノミー

改革開放に伴い、中国において既存の社会構造、思想観念と価値観は大きく変化してきた。伝統的な集団主義本位とする単一価値観から多様な価値観に向かっている。多元価値観共存の局面は、個体の個性表現に自由と空間を十分に提供している。様々な非主流価値観が現れて、社会と伝統的な主流の価値観と衝突し、アノミー現象は時々が発生する。

個性の表現が社会的規範の制約を失い、社会倫理道德の存在を無視する時、必ず縁辺化と異質化になる。小動物に対する虐待や被災者に対する侮辱など、いずれも変わり者のイメージで注目を集め、モラルを挑戦し、人肉検索の対象となった。

2) 情報に対する欲求と感情の発散

ネチズンにとって、情報を検索し知識に対する欲求を満足することと、情報を発信し感情を発散することは、インターネットを利用する主な目的である。インターネットは様々な情報の集散地だけではなく、言論自由を楽しむ公共プラットフォームでもある。人肉検索に参加して、コメントを書き込んで事件に対する見解を発表し、感情発散の欣快を体験する。

「銅須門事件」と「3377事件」では、ネチズンは当事人に対して猛烈に非難し、現実社会における「不倫」に対する立場や態度を表現する。

3) 自己実現の欲求

アメリカの心理学者アブラハム・マズローが、「人間は自己実現に向かって絶えず成長する」と仮定し、人間の基本欲求は「5段階のピラミッド」のようになっていて、底辺の欲求が満たされると、1段階上の欲求が出てくる。⁴現在中国では社会が安定で、経済も急速に発展しているから、多

4 自己実現理論、欲求段階説と称することもある。5つの階層は生理の欲求、安全の欲求、社会的欲求/所属と愛の欲求、承認（尊重）の欲求、自己実現の欲求である

くの国民が低階層の欲求は基本的に満足して、より高階層の欲求を求めつている。積極的な社会評価や他人の尊重を獲得し、自分の価値と能力を展示して目標を実現する本能的な願望が誰にもある。しかし競争の激しい現実社会ではなかなか実現しにくい。

一方、バーチャルなサイバースペースを通して、自己実現の欲求がより簡単に満足できる。人肉検索において、ネチズンは裁判者の役を演じることで「英雄コンプレックス」を体験し、自己実現の心理欲求を満足した。彼らは社会モラルと公正心理を基にして、事件の善悪美醜を評判し、調和社会の秩序を守った。

4) 集団極性化現象 (group polarization) と責任の分散

人間は集団になると、個人でいる時より極端な方向に走りやすいという傾向を持っている。リスクをとる傾向にある人々がグループになればよりリスクな選択をグループの決断として下し、差別主義的な人々が集まれば差別を促進される傾向に傾く。なぜかという、まず、集団では責任が分散され、いざ失敗しても、自分が負うべき責任が小さい。次に、集団の中で交わされる議論は、より強い主張に流されやすい。そして、人間には自分の能力を周囲に認めさせたいという欲求があり、他の人が見ていところでは、よりリスクの高い選択をして成功したい傾向がある。

つまり、インターネット・コミュニティでは、構成するメンバーが多いから責任意識が分散された。仮想なグループにいるネチズンは、孤立と周辺化にされないよう、主流派意見を賛同する傾向がある。その中には、過激な発言でセンセーションを引き起こし、自分の地位を高めて「オピニオン・リーダー」を目指す者がいるから、事態の発展と主流派意見がますます極端化される。

5) 匿名のカーニバルと広場効果

一般的に、ネチズンは自ら有効的な個人情報インターネットで公表する必要がないから、自分の社会属性を隠匿したり、身分を転換したりすることが可能できる。すなわちインターネットでは、一人のネチズンが、現実

的身分及び道徳観と違う身分を幾つか持つことができる。このバーチャルなコートの掩護の下に、普段表せない個性と演じられない役を存分に表現できる。まさにカーニバルの天国であるという。[6]

インタネット・コミュニティはカーニバル広場のような公共プラットフォームである。この広場には人数が多いから、「広場効果⁵⁵」という現象が現れた。つまり有限な時間と空間で、非常に感染力のある環境と雰囲気を作り出して、参加者にリアルな集団式体験を与え、熱狂的な状態で楽しみと痛みを満喫させる。銅須門事件と死亡ブログ事件では、多くのネチズンはターゲットに対して莫大な世論と感情のエネルギーを爆発し、道徳の旗の下で広場のカーニバル式体験を楽しんだ。

5.2. 伝達学視点から

伝達学のから見て、人肉検索は以下のような特徴がある。[7]

1) 融合式伝達方式

人肉検索は、個人間通信 (Interpersonal Communication) 組織通信 (Organizational Communication)、大衆通信 (Mass Communication) を含む3種類の伝達方式を融合した。伝達の過程が発散的で動態であり、行動パターンが固定されていない。点から面に拡散したり、面から点に回帰したりして、集団の間でインタラクティブすることもある。

2) 多元化情報形式

情報の形式はテキストや図表、写真、音声、動画などを含み、かなり豊富である。具体的な検索事件では、具象化の情報が内容の信憑性と効果を高めて、大衆を感動し事件に参加させやすくする。

3) 複雑な情報流

人肉検索の投稿及び情報補足は、どちらの権威機構や個人で行われたのではなく、多数のネチズンによる共同作業である。ネット上に蓄積された

5 社会心理学用語。人々は、すべての公開的で人の集まった場所において、常に日常と大分違うひいては全く逆の言動をする傾向がある。これは単なる知識欠如による愚昧ではなく、基本的な人間性と群衆心理の問題である。

情報は信憑性や有効性など品質の差が大きいから、検索過程はいわば情報を選別し散布する過程である。

4) 散漫的没入型参与

検索を参与する者には、他人事とは思わず感情や態度、現実行動など事件に溶け込まれてしまう者が多い。死亡ブログ事件を例にして、王氏に対して電話やメールで非難する者がいるし、直接に訪問する者もいる。さらに深圳や上海から北京に裁判を聞きに行って、現場で何人も泣いたことがある。伝達学では没入型参与という。

当然、すべての参与者は没入型であるとは言えない。中にも好奇心や暇つぶし、盲従などの原因で参加し、途中で引き上げる者も少なくない。というわけで、人肉検索を巡って集まったネチズンは、相応の制度や規範が存在せず秩序を持つ組織ではないから、言行がより自由で散漫である。

5.3. 法学視点から

法学の視点から見て、人肉検索に係わる権益侵害は以下の3つがある。

1) プライバシー侵害

プライバシーとは、私生活上の事柄をみだりに暴露されない法的な保障と権利である。人肉検索の場合、他人の個人及び家族、付き合い相手などの情報をネットで暴露するのは、明らかにプライバシー侵害行為である。特に身分証明書番号やキャッシュカード情報、電話番号などが世間にばれたら、公民財産の安全に深刻な脅威をもたらす。

2) 名誉毀損

人肉検索はプライバシー侵害の他、常に漫罵や中傷などの攻撃行為が伴う。故意か過失か、いずれにしても検索された者の社会的評価を低める。

3) 肖像権侵害

中国において、肖像権に対する法律的保護は営利目的に限っている。人肉検索での写真を散布するネチズンは営利目当てではないから、肖像権侵害を追及すべきではないと李曉霞が主張する。それに、サーチエンジン・

サービスを提供するサイトは、投稿者ではないから直接責任者ではない。投稿者の責任を追及しなければ、サイトの責任を追及すべきではないという。[8]一方、検索された者の写真がネットで暴露されることで、容貌が評価され、人柄がけなされ、精神的の面で利益が侵害されているから、肖像権侵害の一種と認めるべきであると、王憶晴が主張する。[9]

6. 功と罪

人肉検索は、正義感に駆られたネチズンの集団行動であり、数多くの場面で活躍している。一方、時に当事者だけでなく家族や知人までも個人情報暴露され被害をこうむるなど、不正追及とプライバシー侵害の問題が常に表裏の関係になっている。

6.1. 積極的な役割と社会影響

1) 国民の知恵と力を十分に発揮する

人肉検索のない時代には、限られた情報で人探しや事件真相の解明、裏情報の収集などをするのが、決して簡単なことではない。人肉検索のおかげで数多くの人が助けられた。(華南虎事件の真相解明、四川大地震時の人探しや現場状況の伝達など)

2) 社会の道徳と秩序を守る

人間社会では、有効な伝達が合理的な判断に役立つ、合理的な判断が価値のある目標の達成に役立つ、伝達の効果は群体の生存あるいは他の特定の需要に役立つべきである。

人肉検索の事例には社会的スキャンダルを摘発するケースがかなり多い。標的になった者はほとんど法律を違反していないから、法的手段で裁くことができない。しかし人肉検索を通して、世間から不道德な行為を行った者に対して厳しく批判したら、人々が検索のターゲットになるのを恐れ、世の中のモラルを順守するようになるであろう。

3) 民主化を進める

中国において、唯一絶対の権威が「天下に号令する」時代は徐々に過ぎて行く。伝統的なマスコミが占める市場シェアは縮小しつつあり、その言葉の権威とコミュニケーション機能が不断に弱まってきている。人肉検索というバーチャルなコミュニティにおいて、自発的に集まった人々が交流、共有、監督などの機能を持つ「公共領域」を作り出した。この仮想な空間で、それぞれの観点、立場、思想が融合し発酵する。一方的でコミュニケーションできない伝統的なメディアと比べて遥かに優れている。しかも一旦非正常事件がネットで摘発されて人々に注目を集めたら、世論の圧力で事態の発展に影響を与える。

6.2. 欠点とリスク

1) 公民の権利に対する侵害

人の個人情報など暴露することは、人肉検索の最も重要な作業の一環である。動機や社会的効果を除いて単に行為そのものをいうと、明らかに公民のプライバシー権利を侵害する。それに人肉検索を行った時、常に検索された者に対して侮辱や漫罵など攻撃が伴っているから、当事者の名誉権を毀損することが多い。

それに、電話番号や身分証明情報など敏感な個人情報の暴露によって、現実社会において公民財産の安全に深刻な脅威をもたらす恐れが想定される。

2) 群体心理による暴力性傾向

人々は人肉検索の投稿に対してコメントをする時、常に感情と意見を強烈に表す傾向がある。表現は強ければ強いほど感染力があり、他人に影響しやすい。特に最初から何かの感情傾向を与えられた投稿の場合、ネチズンが情報を受け入れる同時に強烈な暗示も受けている、反対意見がなかなか形成しにくい。たとえ反対意見を持っても、孤立されないよう主流意見に流されたり、コメントをやめたりして、結局ネット上で集まった意見は高度な一致に向かう傾向がある。強烈な感情が極端化され、もともと善意

の行為が爆走すると、サイバー暴力事件に、ひいては現実社会での暴力事件までエスカレーションしてしまう。

3) 行き過ぎた正義による娯楽化傾向

人肉検索を参与する者たちは、社会正義を保護する時に行き過ぎた行動を取る疑いがある。CCTVやらせ疑惑で標的になった小学生に対するパロディ、死亡ブログ事件で王氏の両親へのかき乱す、銅須門事件でゲームの中まで追いかけて、「守望慰問団」というギルドを設立してデモを行うなど、もしかして社会正義に対する保護の裏には、集まった人々がターゲットに鬱憤を晴らし、そして楽しんでいる気持ちもあるかと時々思う。

4) 悪用されるリスク

人肉検索は、「正義を実現するため」の最高な場所と方法とみられるが、1つの避けられない問題をもたらした。もともと正義を代表する人肉検索は、悪利用されると、他人のプライバシーを窺う一つの道具に過ぎない。ネチズンは下心を持つ者に誘導され、一方的な観点を聞いて信じて、結局不正に利用されることがあった。女子大生刺殺案では、林明はネット上に嘘な情報を投稿し、人々から同情と援助をもらった。元彼女周春梅の情報を入手する次第に殺害した。人肉検索を利用してかわいそうな人を助けていると思い込んだネチズンは、殺人犯の犯行に協力したという意味になったであろう。

7. 対処法

7.1. 既存対策

悪質な人肉検索事件は2006-2008年に集中し、事件の当事者の身心に酷い傷害、社会にも深刻な影響を与えた。しかし、この3年間人肉検索を食い止める法律法規は一切なかった。この時期人肉検索の標的とされたのはほとんど普通の人間であった。しかし、2008年の後半から、人肉検索の矛先が劇的に汚職役人に向くようになった。人肉検索による不正摘発にお

それをなした地方政府は、規制の動きに出た。

2009年1月、江蘇省徐州市の人民代表大会は『徐州市コンピューター情報システム安全保護条例』を可決、許可なく他人のプライバシーをネットで流すことを禁じ、違反者に5000元以下の罰金を科す。初めての「人肉検索」を狙う法規であると思われる。しかし、この条例は数多くのネチズンとメディアから激しい疑義と反発をまねいた。結局、徐州市の関係者は、汚職官吏の摘発、犯罪の検挙などにはこの条例を適用しないとコメントした。ほか、同年8月、寧夏回族自治区も類似の規定を発表した。

2010年10月、深圳市の人民代表大会は「個人情報保護条例」の制定に向け、市弁護士協会に起草を委託、制定されれば中国初の個人情報保護規定になるという。関する報道によれば、「国内外の経験を取り入れ、個人情報の収集、蓄積、伝達、公開、利用などの行為を全面的に規制する。個人情報の主体（本人）の権利や、情報管理者の義務などを明確にし、個人情報侵害についての法律上の責任や訴訟手続を確定し、個人情報の保護について、『真に頼りになる』立法を目指す」としている。

2016年11月、中国の全国人民代表大会常務委員会は、「インターネット安全法」の決議を通し、2017年6月から実行する予定である。人民網が「個人情報の保護を強める」と題名で強調した。[10]それに対して、「国家の安全などに関わる事態では特定地域のインターネット通信を制限できる法」、または「習近平指導部が重視するネット空間での言論統制の一環となる」と日本経済新聞が解釈した。[11]

2009年1月1日、複数の大手掲示板に「人肉検索非組織性連盟」なる名義で「人肉検索公約1.0Beta版」という文書が投稿された。人肉検索を「正しい道に発展」させることを掲げたこの文書は、他人のプライバシーをなるべく検索せず、個人情報を公共の場で暴露しないとしつつ、それらは「汚職・腐敗」追及と「勸善懲惡」には適用しないとし、ネットユーザーの倫理を訴えかけるものであった。[12]

7.2. 努力の方向

1) 個人情報の提供要請はより慎重にすべきである。

現在、様々な場面でユーザーに個人情報を提供するように要求している。そして実名化から携帯番号確認、指紋、顔写真まで、要求される情報がどんどん多く、厳しくなってくる。ユーザーに責任を感じさせ自分の言動を慎むよう威圧することに、または責任者を特定することに役立つかもしれないが、ユーザーの個人情報が漏洩される不安を一層高めた。アカウントとパスワードの漏洩はまだ挽回する方法があり、危害の程度も限られている。指紋や顔写真など生体認証情報が漏れたら、思いつかないほどの被害をもたらすことになるであろう。

2) 人肉検索を禁止すべきではないが、規範する必要がある。

人肉検索は、多くの場合で善意、正義を語るものであり、社会道徳と秩序の維持、権力者に対する監督、民主化の推進などの場面で活躍し、文明社会の建設に積極的な役割を果たしている。人肉検索に恐懼を感じるのは、大体公德心欠如、法律違反、秩序攪乱に関わっている者たちである。

一方、標的にした人物の個人情報を暴露したり攻撃したりすることによって、守られるべきの公民権利を侵害してしまうことも無視できない。たとえ圧倒的多数を占める、法律を遵守する善良な人々にとっても、人肉検索に恐怖感を抱くのは決して杞憂ではない。きちんと対処しないと、女子大生刺殺案のような悪利用による悲劇は、おそらく何時かまた起こるであろう。

3) 国民に、世論に行政を監督する有効的なルートを与えるべきである。

民主化は世界範囲の主流思想であり、中国もそれを目指している。近年、習近平主席はインターネットの重要性を認識し、力を入れてガバナンスし始めた。「正当な取り締まり」か「言論統制を強める」か、人や立場によって解釈が違うが、社会の安定と調和社会の建設にはインターネットネットに対するガバナンスが不可欠であると筆者は思う。

人肉検索という話題に戻して、「立法を通して公民のプライバシー暴露

を禁じる同時に、不正を犯した役人のスキャンダルを暴露することに特許の制度を確立すべきである」という指摘がある。[13]つまり、「国民の知る権利」と「サイバー暴力」の間で如何にバランスを取るかは、立法者が直面する問題になる。

参考文献

- [1] 萨苏《非网络时代的人肉搜索》《八小时以外》，2014(11)
- [2] 周典芳「ニュースから見た台湾の「人肉搜索」に対する意識」『東アジア評論』巻：6，ページ：127-135，出版年：2014年03月
- [3] 高広強，中尾健二「中国における「人肉搜索」の現状と諸問題」『静岡大学情報学研究』巻：18，ページ：33-50，発行年：2013年03月29日
- [4] 史中《顶级黑客欢乐解析：宝宝事件中人肉搜索的七种方法》<<http://www.leiphone.com/news/201608/ipcIumSBNSJOrMnX.html>> 2017年5月15日閲覧
- [5] 戴玉磊，王淑华《“人肉搜索”现象的社会心理学探析》《开封大学学报》，2010，24(1)：59-61
- [6] 王道勇《匿名的狂欢与人性的显现——对2006年网络集群事件的分析》《青年研究》，2007(3)：21-27
- [7] 刘丹凌《传播学视域中的“人肉搜索”》《中州学刊》，2009(1)：255-258
- [8] 李晓霞《法律视角下的“人肉搜索”》《今日南国旬刊》，2009(11)：143-143
- [9] 王忆晴《论“人肉搜索”的法律规制》《法制与社会》，2014(26)：72-73
- [10] 人民网《《网络安全法》2017年6月1日施行 加强个人信息保护》<<http://tj.people.com.cn/GB/n2/2016/1114/c375366-29303273.html>> 2017年5月20日閲覧
- [11] 日本経済新聞「中国が「ネット安全法」を採択」<http://www.nikkei.com/article/DGXLASGM07HC9_X01C16A1FF8000/> 2017年5月20日閲覧
- [12] 豆瓣网《人肉搜索公约1.0Beta版》<<https://www.douban.com/group/topic/5032183/>> 2017年5月22日閲覧
- [13] 透明中国《立法规范人肉搜索，请给舆论监督留条路》<<http://www.ogichina.org/article/99/5038.html>> 2017年5月23日閲覧